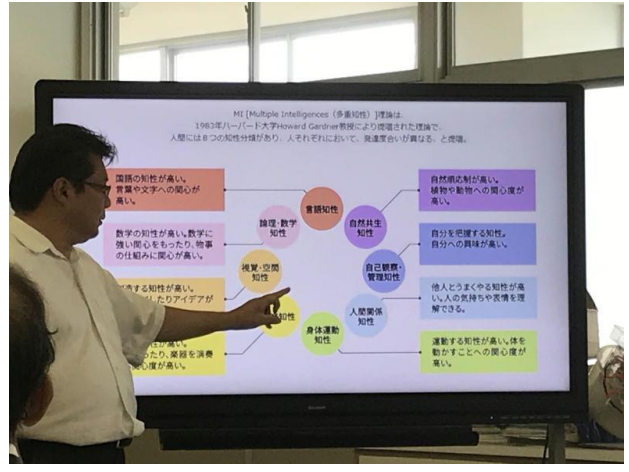
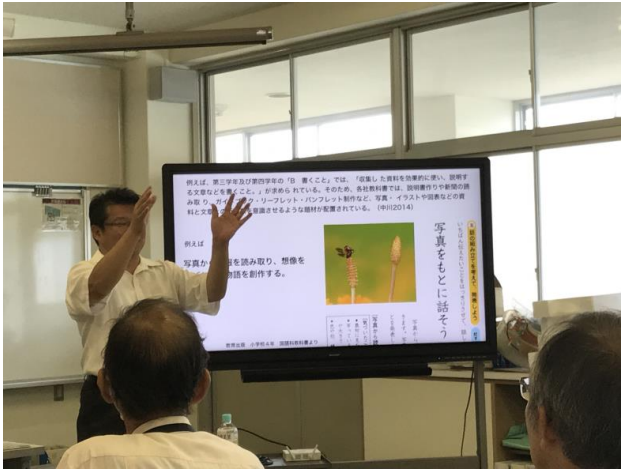
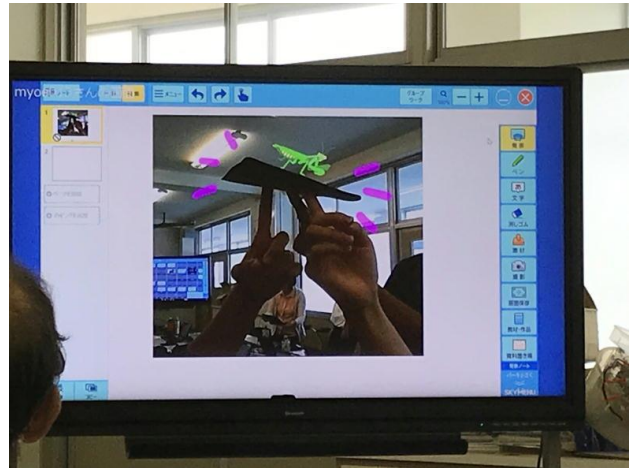


1 教職員研修（夏季実技研修会）について

令和元年8月9日、東温市立南吉井小学校において、視聴覚・情報教育委員会夏季実技研修会を行った。研修会は、「新学習要領とICT活用～だれでも簡単にできる写真を活用した授業づくり～」と題して、松山市立椿小学校石田年保教諭に講師を依頼した。参加者は15名であった。

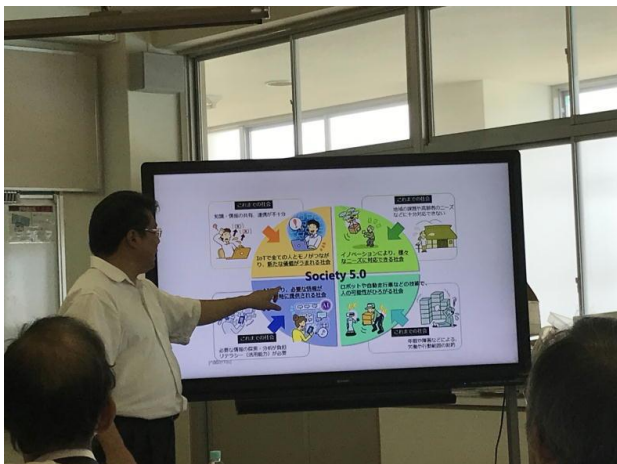


多重知性といわれる人間の知性は8つに分類される。言語知性・論理・数学知性、視覚・空間知性、音楽知性、身体・運動知性、人間関係知性、自己観察・管理知性、自然共生知性があり、子どもたちがそれぞれもつ違った個性や能力にあわせた教育が求められている。

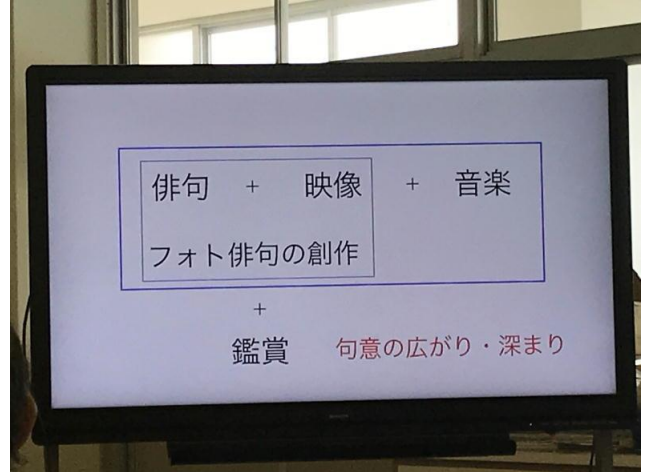


【ワークショップ1「協力のイメージを映像で表現しよう」の様子】

写真に書き込みをしたり、絵を描いたりして、3人組で協力のイメージの視覚化について話し合った。この活動を通して、機器の活用方法が分かり、互いの考えを知ることができ、相互理解が深まった。また、他のチームのよいところを見つけて発表することで、主体的に活動に参加させるとともに、人間関係づくりにもつなげることもできた。



多重知性の中で、I Q に相当するのが言語知性・論理・数学知性、視覚・空間知性であり、E Q に相当するのが人間関係知性、自己観察・管理知性である。これからは、I o T (Internet of Things :モノのインターネット) やA I (Artificial Intelligence :人工知能) などの最新テクノロジーを活用した便利な社会「Society 5.0」となる。それに対応した学習を進めていかねばならない。情報活用能力の3観点8要素のうち、情報活用の実践力が今までは中心であったが、これまで以上に情報モラルなど、情報社会に参画する態度やプログラミング等の情報の科学的な理解が必要となっている。



【ワークショップ2「フォト俳句を作ろう」の様子】

今回は、俳句を用意し、その俳句に合わせて写真、文字で表現した。

俳句に写真をつけたものを紹介し合い、多様な着眼点から解釈することで、深い理解ができた。今回は用意した俳句であったが、自分で俳句をつくる段階で、映像や音楽などを使うことで、句意が広がり、深まると思われる。

2 課題

タブレット端末のカメラ機能を使った学習は、簡単に取り組めるものであるため、効果的に使うと学力の向上につながる。アイデアを生かして、楽しい授業づくりに努め、授業改善を図っていかねばならない。また、来年度からの小学校プログラミング教育の全面実施への対応も計画的に準備を進めていきたい。